岡谷市民病院

「思いやり」をベースにしながら これからの変化にも対応できる療養空間。

4F病棟のシャワー・トイレユニット付きの個室。トイレの横にはL型手すりが設けられている。

長くこの地の医療を支え続けてきた市立岡谷病院と健康保険岡谷塩嶺病院は、
将来にわたって質の高い医療を提供できる体制を構築するため、
2006年に経営統合し、岡谷市病院事業の大きな核となりました。
そして2015年10月に、新築された岡谷市民病院がスタート。
「思いやり」を基本理念として、心温まる患者さんへのサービスを提供し、
地域の人々に信頼され親しまれる病院を目指しています。

新しい建物は免震構造で地下1階、地上6階。

岡谷市民に親しまれる「童画」を病院のさまざまな場所に採用。

新しい病院は、近隣の住宅に配慮し、建物の高さを制限。地下を作ることで、法規的には7階まで建設可能な場所を6階建てに納めました。1・2Fは外来部門中心、3Fは手術部門と管理部門、4～6Fを病棟階とし、東西に1病棟ずつ配置することを基本としています。敷地の関係で建物のフロアがほぼ正方形をしているため、東西の看護単位で病床数に可変性を持たせ、将来的な経営の変化にも対応することができます。

病院の空調環境も大きく改善しました。以前は部屋ごとにあった冷暖房が全館コントロールになり、快適な環境が実現。冷暖房システムには地中熱も利用しています。

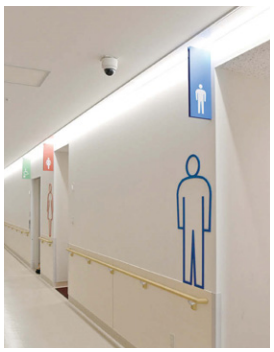
さらに、市民病院として親しんでもらえるように、「子ども心にふれる絵」を創作し続けた岡谷市出身の童画家である故・武井武雄氏の童画が、案内サインなど各所にあしらわれています。

病室の前などにも、故・武井武雄氏の描いた童画があしらわれている。

岡谷市民病院

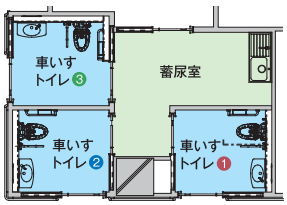
- ●竣工年月／2015年8月
- ●所在地／長野県岡谷市本町4-11-33
- ●施主／岡谷市病院事業
- ●設計／日本設計・サイト設計共同体
- ●延床面積／24,157.57m²
- ●病床数／295床

エントランスロビーには、武井武雄氏の「Leoの魔法」という作品が、地域ゆかりの作家のコラボレーションによって立体のレリーフとして飾られている。



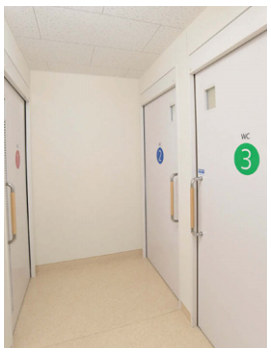
大きく立体的なトイレのサイン。

おむつ交換台などが設けられ、巻上巾木を採用している外来の多機能トイレ。

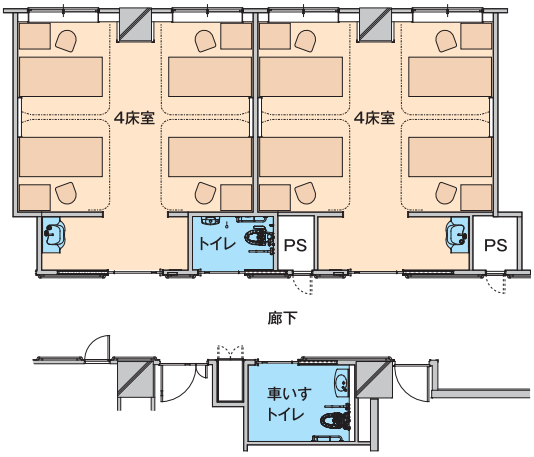


6F蓄尿室 平面図

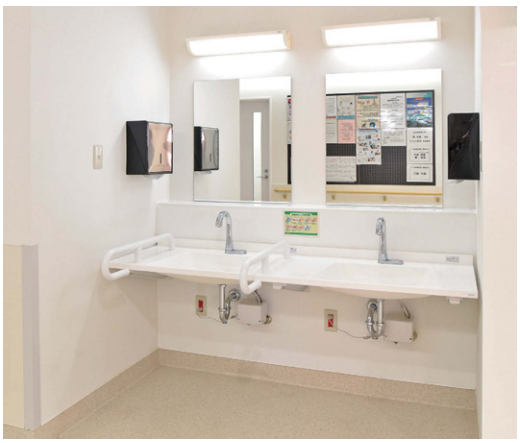
6Fの外科病棟に設けられた検査用トイレは、3室がいずれも蓄尿室につながる設計となっている。



4床室の車いすで使いやすい洗面カウンター。



6F 4床室・車いすトイレ 平面図



回復期リハビリ病棟のみ、廊下にもリハビリの動作ができる洗面カウンターを設けている。

Voice 病院事業管理者の方からの声

トイレへ行くことが、日常生活への復帰も支えます。

岡谷市病院事業管理者
平山二郎さん

新しい病院の基本理念は「思いやり」で、その実現に向けた5つのキーワードは「やさしさ」「わかりやすさ」「プライバシー」「スピーディ」「アメニティ」です。患者さんのご要望を聞きながら、より良い療養環境の創造に取り組みました。トイレは以前の環境の倍ぐらいの数に増やしています。お年寄りの患者さんも多いので、トイレが近い距離にあるのはとても重要なこと。トイレへ行くために患者さんにできるだけ動いてもらうことがリハビリの面でも大事になりますし、日常生活に戻りやすくなると思います。

Voice 庶務課の方からの声

トイレを廊下側からの出入りに変更しました。

岡谷市民病院 庶務課 用度担当主査
内山朋信さん

岡谷市民病院 庶務課 用度担当主幹
宮原治希さん

4床室のトイレは、当初は病室側からの出入りを予定していましたが、設計が進んだ段階で、廊下側からの出入りに設計変更してもらいました。また、看護部から介助しやすい広さを確保してほしいという要望があり、2つのトイレを合わせて広いスペースに変えたところもあります。

Voice 看護師長さんからの声

診療科ごとに違いのあるトイレ設計がなされています。

岡谷市民病院
回復期リハビリ病棟
看護師長
武居えみ子さん

岡谷市民病院
外科病棟
看護師長
石川和江さん

回復期リハビリ病棟は車いすの利用者が多いので、車いすトイレの数を増やし、空間も広めに作っています。外科病棟では蓄尿室に直結するトイレを設けるなど、それぞれの科に合わせ細やかな設計対応をしています。

Voice 設計担当の方からの声

将来的な経営の変化にも対応できる設計です。

株式会社日本設計
医療施設設計部
主管
陸川悠さん

株式会社日本設計
医療施設設計部
数藤良太郎さん

6Fの緩和ケア病棟は全室個室にしていますが、将来的に病床数を増やせるように、床下にピットだけ設け、後からでもユニットシャワーを設置できるようにしています。今後の経営の変化にも合わせられる設計です。